

次世代がつなぐ平和への思い

問総務課 TEL 71・2408



市では、平和都市宣言を制定した平成24年から中学生が広島平和記念式典に参加し、平和の尊さを学ぶ取り組みを行っています。本年も松本大学・平和創造研究会と連携し、大学生のサポートを受けながら中学生が学びを深めました。

現地での学びと思いを形に

7月3日に行われた第1回学習会では、大学生が原爆の恐ろしさや被害の大きさを中学生に向けて発表しました。その後、中学生は発表を聞いて思ったことを話し合い、グループごと学習の軸となるテーマを設定。広島を訪れた時に着目する点や疑問に思うことを整理しました。

8月5日には広島を訪れ、平和記念資料館や原爆ドームなどを見学。生徒らは熱心にメモを取りながら見学していました。翌日は約120カ国、約5万5000人が参加した平和記念式典で、戦争の悲惨さや当たり前ではない平和の尊さを肌で感じていました。

8月16日の第2回学習会では、現地を訪れて気付いたことや新たな発見をグループで共有。共に広島を訪れた大学生も一人一人の意見を丁寧に聞き、考えをまとめる助言をして中学生を見守りました。

そして、9月13日の体験発表会では各グループがこれまでの学習の成果を発表。テーマに沿って学んだことや広島での体験を伝えました。実際に訪れて感じた原爆の恐ろしさや何気ない日常の大切さを話す中学生の言葉に、多くの人がうなずきながら耳を傾けていました。

過去の参加者が語る平和

発表後は令和4～6年度にこの事業に参加し、現在は高校生となった皆さんが平和への学びを深めたことで変化した自身の考えや行動、もっと知りたいことを話し合うディスカッションが行われました。高校生からは「参加したことで、原爆の話友達とできるようになった」「被爆者の思い

各グループの発表の一部を紹介します

1班 アメリカから見た原爆投下 世界から見た原爆投下

なぜ原爆が広島と長崎に投下されたのか、原爆投下に対する世界の反応を発表しました。原爆が投下された背景には、さまざまな条件やねらいがあったことを交えて、原爆の恐ろしさを伝えました。

2班 戦争と核兵器の過去と今

広島平和記念資料館で見た被爆者の遺品と証言から、同じ歴史を繰り返さないよう語り継ぐことの大切さを発表しました。被爆者の高齢化が進んでいる中で、自分たちの世代が原爆の恐ろしさを伝えていく役割があることや、今なお世界では戦争が絶えないことから、核兵器のない社会の実現を呼びかけました。

3班 原爆の規模と被害

爆心地の温度や放射線によって現れる後遺症など、原爆の具体的な被害や威力をクイズを交えて発表しました。また、被爆した小学生が書いた詩を紹介し、何気ない日常の大切さに気付かされたこと、広島で見聞きたことをもとに、平和への思いを次の世代につなぎたいことを伝えました。



①事前学習ではグループごと学習テーマを設定②「原爆の子の像」に折り鶴をささげる③原爆ドームの前で記念撮影④⑤広島での体験を発表⑥高校生が平和について意見を交わしたトークディスカッション

各グループがまとめた発表会の資料は市HPからご覧いただけます。



を知り、原爆を自分ごととして考えるようになった」という生活の変化や「平和な社会の実現にはさまざまな人の意見を聞いて考えることが必要」など、平和への歩みを進めるための意見が交わされました。

学習をコーディネートした松本大学・尻無浜博幸教授は講評で「戦後80年を迎えた本年に安曇野に住む中学生と高校生、地域の大学生が集まって平和への学びを深めた意味は大きい」と学習の成果を結びました。

Voice 発表会を終えて 発表を終えた中学生と学習をサポートした大学生に話を聞きました。

広島平和記念資料館で血に染まった衣服や溶けて変形した弁当箱を見て、原爆の恐ろしさを感じました。発表では、広島での学びや肌で感じた思いを伝えることができました。



穂高西中学校
藤原ひよりさん(14)



松本大学 平和創造研究会
神部涼馬さん(22)

中学生の皆さんが平和に対する自分なりの考えを持っていることに驚きながらも、一人一人の思いを尊重できるように意識しました。活動を通して、私自身も学びを深めることができました。